

石川の林業

昭和31年3月26日 第3種郵便物承認
令和8年9月10日発行（毎月1回10日発行）

題字 会長 山野 之義



協力事業体に参加した安全会議



安全衛生委員会による月1回の現場パトロール

労働災害ゼロの組織をつくる（金沢森林組合）

目 次

第71回石川県山林大会を白山市で開催（県山林協会）	2
令和8年度石川県森林整備、治山・林道コンクール	3～4
森林環境譲与税を活用した取り組み（白山市森林対策課）	5
坂本龍一の想いを受け継ぐ、能登の森づくり～都市と森をつなぐ架け橋に～ （一般社団法人 more trees）	6
アテ林業・能登ヒバで拓く、能登の創造的復興を進める （フルタニランバー（株） 代表取締役 古谷隆明）	7
木材市況、特用林産市況	8

9
2026
No. 855

アテ林業・能登ヒバで拓く、能登の創造的復興を進める

フルタニランバー（株） 代表取締役 古谷 隆明

フルタニランバー株式会社は、1904年（明治37年）石川県宇ノ気町に船大工として創業、金沢市堀川町、北安江として現在の金沢市湊へと事業を拡大するとともに移転し、社名も古谷木材株式会社から1993年（平成5年）に現在の社名となりました。

私は、2018年に5代目の代表取締役社長として就任し、2025年からは、公益社団法人石川県木材産業振興協会（以下「木振協」）の理事にも就任しました。

まずは、令和8年熊本地震による甚大な災害で犠牲となられた多くの方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災者、被災地域の皆様方に心からのお見舞いを申し上げます。

石川県でも令和6年能登半島地震の震災復旧・復興に際しては、熊本県からも大きなご支援をいただいたところですが、フルタニランバー（株）として、そして木振協理事として色々と復旧・復興に関わる機会がありましたので、報告させていただきます。

◇組手 仕による避難所支援

七尾市の避難所を中心に、木製組立キット「組手仕」を5万本以上届けました。

組手仕は、長さ約2m×幅40mm×厚さ15mmの間伐材等に、“組手”と呼ばれる加工が施された部材を数本～数十本組み合わせ、収納棚から机までの様々な用途に使える組立てキットです。①自由に何でも作れ、②コツをつかめば誰でも簡単に組み立てられ、③接着剤を使わないので仮設住宅等でも再利用できるものです。

この活動は、避難所運営にあたっていた七尾市の関軒製材所の関軒明宏さんや石川県木材青壮年会の仲間と一緒に、公益財団法人国土緑化推進機構の支援を受けて実施しました。



避難所で組手仕を組み立てる

◇音楽を通じての復興支援

2024年6月14日から23日までの6日間、東京の南青山にあるスパイラル ガーデンにて、能登ヒバピアノを使った WONDER PIANO スペシャルコンサートを実施しました。このピアノはアップライトピアノの外装に能登ヒバを利用しました。

その後、河合楽器制作所と共に復興を願い能登ヒバ製のグランドピアノを製造し、石川県に寄贈しました。

このような、能登ヒバの新しい価値づくりと高付加価値化を目指す「ATENOTE - 能登ヒバ楽器プロジェクト」では、これまでピアノやギターなどの30種以上の楽器を製造した他、ミュージシャンの斉藤和義氏、オレンジレンジ、BRAHMANのTOSHI - LOW氏、ASIAN KUNG - FU GENERATIONの後藤正文氏らとともに、能登復興に関わる事業・企画にも取り組んでいます。



能登ヒバのギターを演奏する TOSHI-LOW 氏

◇アテ林業・能登ヒバを生かした能登の創造的復興事業

この事業は、木振協が一般社団法人日本民間公益活動連携機構の休眠預金活用事業を利用して、多方面から能登の復興に資する活動を行ったものです。

その事業内容は、能登ヒバサポーターの募集、ポータルサイト「ATE-NET」による情報発信、被災地と支援企業をつなぐための事業者マッチングをはじめ、アテ林業の持続化・能登ヒバの高付加価値化に寄与するリーディングプロジェクトの募集に加え、各種展示会におけるアテ製品の展示を行ってまいりました。

フルタニランバーとしましてもリーディングプロジェクトに応募し、ホテル向けの製品開発と客室の木質化を見据えた快適宿泊環境のモデル整備事業が採択され、2026年2月17日には第54回国際ホテル・レストランショーなどで「Noto - room」として、能登ヒバ製の壁材やドア、家具などの展示を行い、高評価を受けました。

また、同展示会の「ホスピタリティデザインセミナー」では、建築家で一般社団法人 more trees 代表理事の隈研吾氏、能登森林組合代表理事組合長の亀井順一郎氏と共に登壇し、能登半島地震と奥能登豪雨という二重の災害を受けた能登の森と暮らしを、林業と木材産業の再生を通じてどう立て直すかを語り合いました。

セミナー最後には、隈氏と亀井氏が壇上で「能登・ふるさと共創の森づくり」協働宣言を交わし、その動きは2026年6月3日に輪島市役所での輪島市・能登森林組合・more trees による3者協定締結式へと発展しました。

このように、「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興事業」の成果が実を結び始めています。



能登・ふるさと共創の森づくり協定を締結

モア トゥリーズ